

学級数を充足する普通教室を保有している。

地域的には、県北、県中、県南、会津、南会津地域において、標準学級数を充足する普通教室を保有する学校が比較的多い。

また、県北、県中、相双地域においては、標準学級数より多く普通教室を保有する学校が多い。

標準学級数に対する普通教室の保有状況を市部、郡部別にみると、表2-2-11のとおり、市部には、郡部より普通教室数が標準学級数より不足する学校が多い。

郡部では、普通教室数が標準学級数に等しい学校及び普通教室数が標準学級数より多い学校が、学校全体の90%以上となり、多くの学校は、標準学級数を充足する普通教室を保有している。

特別教室の保有状況をみると、表2-2-12のとおり、保有教室数は各特別教室ともに、ほぼ漸増する傾向をみせている。

特別教室のなかで、保有数が多いのは、音楽室、理科室及び図書室である。

保有数が少ないのは、家庭科室、図工室及び視聴覚室であるが、特に、視聴覚室の保有数は、少ない。

本県における小学校屋内運動場の保有状況をみると、表2-2-13のとおり、保有率は、毎年、高くなる傾向を示している。

屋内運動場の本校・分校別保有状況をみると、表2-2-14のとおり、分校の保有率は、極めて低い。

屋内運動場の構造別保有率をみると、図2-2-26のとおり、鉄骨が高くなり木造が低くなる。鉄筋は、ほぼ一定の保有率で推移する。木造の保有率は、昭和46年度まで最も高く、50%以上を占めるが、翌年度には、50%以下となり、鉄骨の保有率が、木造に代って、最も高くなり、昭和48年度には、50%を超える。

全国平均の構造別保有率は、鉄筋、鉄骨が高くなり、木造が低くなる。

表2-2-12 特別教室の保有状況 (単位：教室)

項目 年度	特 別 教 室 数					
	理 科	音 楽	図 工	家 庭	視聴覚	図 書
46	480	493	198	234		
47	499	517	214	257		
48	508	530	242	283	144	442
49	515	532	256	295	159	469
50	523	542	262	292	173	496
51	529	551	276	292	174	494

注：「公立学校建物の実態調査報告」(昭46～昭51)による。

表2-2-13 小学校屋内運動場の保有状況 (単位：校，%)

項目 年度	学 校 総 数	保有学校数	保 有 率
46	733	451	61.5
47	721	463	64.2
48	712	490	68.8
49	704	496	70.5
50	700	515	73.6
51	692	514	74.3

注：1. 「公立学校建物の実態調査報告」(昭46～昭51)による。

2. 保有率=(保有学校数)÷(学校総数)×100

3. 学校数には、分校を含む。

表2-2-14 屋内運動場の本校・分校別保有状況 (単位：校，%)

項目 年度	学 校 数	保有学校数	保 有 率
本校	567	483	85.2
分校	125	31	24.8
計	692	514	74.3

注：1. 「公立学校建物の実態調査報告」(昭51)による。

2. 保有率=(保有学校数)÷(学校数)×100